

られた諸社を巡拜し、神寶を納め幣帛を奉つたが、紀綱漸く弛廢するに及んで、いつしか部内の神靈を國府に近き一所に合祀し、各社に就きて行ふべき禮典をこゝに於いてすることになつた。總社といふものは是である。後世に至つて往々一郡一郷一庄若しくは數郡落の總社と稱するものができたが、これは主社といふほどの意味で、總社の本義に反するものである。

(二)加賀の總社—加賀に於ける總社は今の能美郡古府にある石部神社であつた。その地國府の南方に當つたから一に府南社といひ、地勢稍高くして府南山ともいうたのを、今諺つて舟見山とした。白山記に『府南を總社と名づくることは、毎月朔日毎に國の勅使國の八社に詣で、御幣を奉り之を禮し奉る。彼の八社に詣廻すること其の煩ある間、一所に之を祀り奉るが故に、府南を總社と名づくるなり。』とあるは、略その要領を得たものである。こゝに言ふ八社は、白山・菅生・府南・粟の能田(粟生の熊田)・安宅の加茂・小河の神府(神保・宮腰の佐那武・乃美(能美)の八幡とあつて、府南の註に氣比・氣多・白山と記したのは、越前・能登・加賀の一宮を合祀したものであると考へた誤謬であるが、府南が國內諸社の總社たることは毫も疑を容れぬ。府南社の名は、建武二年及び正平七年の南禪寺文書にも見える。

(三)能登の總社—能登の總社は、現に鹿島郡古府に總社と名づけるものが存してゐる。社傳によれば、源順の能登守であつた時、國內四十三座の神を勸請して總座社としたといふも、その創置が果して源順の時なりや否やは

疑はしく、總座社といふも正しい稱呼ではない。式内等舊社記には、『惣社。矢田郷古府村鎮座。稱惣社明神。或云惣社宮。往古國司神拜之惣社。』と見える。又能登名跡志に『古府村に惣社の觀音とて、昔は畠山家代々歸依せられ、大伽藍にて數坊ありしとぞ。』といふは、惣社の宮寺のことである。

ソウシヤバン 奏者番 寛文元年正月松平玄蕃康敏・不破彦三爲貞・奥村又十郎易定・横山隼人長辰が初めて命ぜられ、延寶の頃までは奏者取次といふた。後次第に退轉し、元祿八年から一年限の假奏者になつたが、享保九年八月朔日前田將監恒篤・西尾隼人長恒・品川主殿雅武・富田織部方巢・萬卷藏人重長に奏者番を命ぜられ、爾後連綿した。

ソウシユクテヨウ 宗叔町 金澤の町名。元祿の頃堀宗叔なる醫師が居住したによつて町名に呼んだ。その頃までの記録には、此の附近を長町と記載してあるから宗叔町の名はもと俗稱であつたらしい。今は宗叔町一番丁より五番丁までである。

ソウジユジ 宗壽寺 江沼郡大聖寺なる山下に在つて、日蓮宗に屬する。永祿元年日英が法華坊を開いたに起る。その地今に法華坊と言はれる。後久昌山宗壽寺と改め、延寶年間今の地に轉じた。

ソウジユジ 雙樹寺 河北郡白尾に在つて、眞宗東派に屬する。  
ソウジユジ 雙樹寺 鹿島郡酒井に在つて、眞宗東派に屬する。  
ソウジユボウ 宗壽坊 金澤堅町眞性坊小路に居り、城内權現堂別當に屬する中衆の職を勤める天台山伏であつた。

ソウシヨウ 宗性 河北郡木越光徳寺の開基で、初名を利信といひ、天台の僧であつた。寺傳に乾元元年宗性七十六歳で、本願寺覺如の弟子になつたといふが明らかでない。光徳寺は今鹿島郡七尾に在つて、眞宗西派に屬する。

ソウジヨウマハリ 僧正廻 能登石動山の衆徒が知識米を徴する爲、毎年五月國內を巡行するをいひ、この知識米を僧正米とも稱した。羽咋郡大島の諸願堂で祈念を初め、奥二郡を經、鹿島郡飯川の高橋川邊に集合して歸山するを例とした。

ソウシヨエンカイ 草書淵海 四卷。井出正水の著で、草体の法帖である。延寶乙卯訥齋澤田宗堅の序文を附して上梓せられてゐる。

ソウシヨシユツパンゴヨウ 藏書出版御用御藏書出版御用は藩校明倫堂に屬し、藩の出版する書籍の版下を書く者で、訓導等の中能筆なる者を選んで之を兼務せしめた。

ソウシン 宗眞 ↓ダイゲンソウシン 大源宗眞。  
ソウジン 宗愷 ↓センガクソウジン 千岳宗愷。  
ソウズガハナ 象頭ヶ端 鳳至郡鶴入の小岬で、又ソウゾウ鼻ともいふ。能登名跡志に、『此村に象頭の端とて海へ出る崎あり。風景なる所なり。洞あり。奥深きこと限なし。七八町許り行く人もありしといへり。寺口の象尾山へつゞきある由。』とある。寺口は門前のことである。  
ソウセイジ 宗誓寺 能美郡長瀧に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場であつたが、明

治十二年六月寺號の公稱を許された。  
ソウセキ 宗碩 ↓ヲバタソウセキ 小幡宗碩。  
ソウセンチ 宗泉寺 羽咋郡堀松に在つて、曹洞宗に屬する。文明元年總持寺塔頭洞川庵青山の建立に係るといふ。

ソウダツコクタニ 宗達古九谷 又古九谷宗達手ともいふ。古九谷焼の中、宗達風の着書を行うたものをいふ。宗達が親しく書いたのではないが、その書風の類似から起つた稱呼である。  
ソウチ 惣地 ↓デンチワリ 田地割。  
ソウチン 宗珍 ↓ホウチンソウチン 寶珍宗珍。  
ソウテイジ 宗貞寺 鹿島郡高田に在つて、眞宗東派に屬する。

ソウトウシユウ 窓燈集 一冊。榊原守典著。文化八年から文久三年に至る間に、著者の作つた短歌千三百餘首、長歌四十餘首、和文三十餘篇を録したものである。  
ソウドウシユウジン 曹洞宗寺院 ↓ゼンシユウジン 禪宗寺院。  
ソウトク 宗徳 京都の蒔繪師。前田利長の時から藩用を達し、大坂陣の際周旋する所があつたので、扶持方二十俵を受け、寛永七年病歿した。子興兵衛その後を繼ぎ、寛永十四年歿。次代も亦興兵衛といふた。

ソウトクジ 宗徳寺 金澤堀川町に在つて、曹洞宗に屬し、龍光山と稱する。寺記に、永享元年玉窓の能美郡栗津村に開基した所。九代翁翁は小幡宮内の伯父なるを以て、壽福院の庇護を得、前田利常の時小松に寺地を賜はつたが、十代快國の時用地として召上げられ、